

くりはらし 農業委員会だより

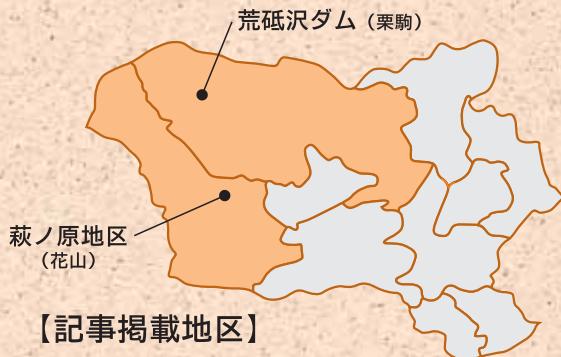
第8号

平成20年9月1日発行



「がんばります！栗原元気物産市」

8月9日（土）・10日（日）の2日間、仙台駅構内において「がんばります！栗原元気物産市」が開催され、栗原の特産品や旬の野菜、農産加工品等が販売されました。



主な内容

- 会長あいさつ 2 P
- 委員会構成 2 P
- 栗原市初の女性農業委員誕生 3 P
- 岩手・宮城内陸地震のつめあと 4 P
- 地区担当委員の紹介 5 P
- 農業委員会からのお知らせ 6 P

女性のパワーで活性化!!

栗原市において初となる女性農業委員が誕生しました。
そこで、今後の抱負などについて、伺いました。



第1農地部会

佐竹きみ子
(築館)



第2農地部会

鈴木春江
(若柳)



第3農地部会

千葉優子
(花山)

● 今の農業に対して思うことは?

今までの農業が、家族経営となつてお
り人に託すその意識は育つていらないと思
う。

現在、兼業化がすすみ農外収入の割合
が多く、農業所得を重要視していらない傾
向がある。そうしたことから農業に対する
夢は持てない。こうした状況にあって
農業の発展を考えるうえで、集落営農は
有効な手段と考える。個々では成り得な
いことも地域一丸となって取り組むこと
で、「これから農業の発展につながると
考えます。

● 今後の抱負

家庭内の自給率の減少が進み私達女性
の手で地域の農地を守りながら家庭菜園
を増やす働きかけも必要と思う。子供達
への食農教育も大事であり、様々な分野
で行われているが、若い人達への食農教
育も必要と考えている。地域の人達の要
望や声を女性の視点から行政につなぐパ
イプ役としても活動していきたい。

● 今の農業に対して思うことは?

世界貿易機関（WTO）交渉は、
決裂し、今年度中の合意はないと言
われています。日本の農業も、今や
世界規模で考えなければならない状
況にあります。

特に、食料自給率の向上が急務で
あり、6割以上を輸入に頼っている
ようでは、少数の相手国の事情に左
右され、食料供給の不安定感がいつ
そう高まるところから、今早急な農政
の転換が必要だと思います。

● 今後の抱負

現在進めている集落営農組織の中
での、女性地位向上のため、自給野
菜の栽培、加工、販売等、そして、
手作り料理講習を通して食育の大切
さを認識してもらうために、微力で
はありますが、お手伝いをしたい。
その過程で若い後継者が一人でも
育つてもらえば幸せです。

● 今の農業に対して思うことは?

私は祖父から「農業さえしつかりして
いれば生きていける」、父からは「農業
は食料の生産だけではなく国土を守る大切
な仕事だ」と言われて育った。

今私は、兼業農家に嫁ぎ、子ども達の
手を貸しながら農業をしている。米を作
り、牛を飼い、自給自足に近い生活をし
ていて。花山という中山間地での農業經
営は厳しく、それに加えて日々迫り来る
自然との戦いもある。しかし、この生活
は全ての出発点であり、その農業は生き
ることの原点であると思っている。

● 今後の抱負

農業は生きていることの原点であると
考えるから、いろいろな面で女性の役割
が大きいといわれてきた農業社会をもう
一度考えてみる必要があると思う。
まず、女性が魅力を感じる農業・農村
でなければいけない。それは決して無理
をせず、日々楽しくできることだ。
どうしたら実現できるか。そういう暮らし
の方を足元から発信していきたい。

岩手・宮城内陸地震のつめあと

花山萩ノ原地区



▲寸断された用水路



▲ポンプで汲み上げている様子

岩手・宮城内陸地震の発生から2カ月半を経過したが、未だ復興への道筋が見えない地域がある。

花山萩ノ原地区では、がけ崩れが数ヶ所で発生し、水路が寸断され、急きよ農政局から水中ポンプを4基借受けて、水田に水を確保した。この地区には8戸で7ヘクタールの耕作地があり、2人1組で4日に1回、朝5時から夜8時までポンプと水の管理を行っている。また、浅布・中村・金沢地区では、農業用水を確保できない所や、隆起している農地も数ヶ所ある。このような状況では秋の収穫が懸念される。

担当委員：狩野善典

文字荒砥沢ダム



▲土砂が流入した荒砥沢ダム



▲上空から見た行者滝周辺

文字荒砥沢ダムでは、大量の土砂流入により、ダム機能が低下し、今後の農業用水の確保が心配されます。

また、行者滝付近及び上流の土砂崩れにより、くりこま公園線の大部分が通行不能になりました。一日も早い復旧が望まれる。

担当委員：菅原一志

農業者年金に加入しましょう！ 農業者年金は保険料の額を自由に決められる年金です。

詳しくは、農業委員会事務局へお問い合わせください。 電話 22-1184

各地域の担当委員を 紹介します

栗原市農業委員会では、農地の有効利用、農地の利用集積の促進、認定農業者の掘り起こし等を図るため、地区担当制についています。

岩淵 敬一：三田鳥、下在、北浦、
中町 小野 大介：有賀、上在、町館、
新町1、新町2
阿部 政紀：大林1、大林2、福岡
上町、新山

高橋 馨一：上町、南町、中町、
西町、下町、北町、東町、伊豆1
区、伊豆2区、駿前、坂下、館下、
赤坂、成田、佐野、萩沢、高森
佐竹きみ子：下萩沢、上照越、
中照越、下照越

佐々木吉司：高松、清水田、宝領、
大鳥西、大鳥中、大鳥東八幡、
菱沼、栗原、根岸、桜田上、
桜田下、栗原沖

栗駒地区	
菅原 徹	耕英、滝ノ原、日照田
馬場	3丁、若木
佐竹 榮一	茂庭町、六日町、八日町、四日町、東方、下小路、上小路上、上小路下、中野上、中野下、上野
菅原 一志	土井 孝敏
	猿飛来上、猿飛來下、里谷、深谷、鳥沢下、鳥沢北、鳥沢南
菊池 鐵郎	荒砥沢、新田、角ヶ崎
川東、川西、山口、中文字	下文字

上山喜志雄	元町1、元町2、
元町3、片町1、	片町2、大袋、
荒町、並柳、十文字、	我門、
北二股	
佐藤新田	享一川原、南ニ又、大目、
鈴木春江	：南大通、下町1、
下町2、八木、大畑、峯	
鈴木康則	：内谷川、磯、米ヶ浦1
米ヶ浦2、多賀	

菅原 英俊：秋法上、秋法下、

瀬峰地区

狩野	和義	大館、竹の内、曾根
黒澤	光啓	南沢、保呂羽、輝井、八幡
佐藤	秀男	本町、中町、荒町、清水一、清水二
佐藤	一安	嶋体、清水目、東町、金田中町、新町、滝野、川北、大崩
門傳	勝壽	本沢、一本松、狐崎1、
門傳	仁	大川口上、大川口下、荒町上、荒町下、高橋上、高橋下、狐崎2、姫松南沢、畑、片子沢

高清水地区

花山地区

狩野	善典	宿、程野、小豆畑
千葉	幸雄	天ヶ沢、座主、北ノ前、 花山沢、松ノ原、金沢、中村、 浅布
千葉	優子	荒谷、大笠、上原

千葉 幸雄・宮中、山の上、里、
新田
三浦 昭良・北、南、上、中、下、
城内、町
三浦 初男・十文字、荒町、橋本、
熊谷、大平、間海
佐々木 弘 全域副担当

		鈴木 義嗣：宇南、沢辺上、沢辺下、 姉歛上、姉歛下、梨崎下沢辺、 小堤
多田	仁一	… 南1、南2、北、東、
畑1	、畑2	
佐藤	和朋	… 有壁1、有壁2、
菅原		有壁3、上片馬合、下片馬合
大原木		千田 正敏：末野、藤渡戸、赤児、 普賢堂
正雄	… 小迫、岩崎平形、	

鈴木 喜八：駒場上、駒場下、八沢
堰根、袋

農業委員会からのお知らせ

農地の転用には許可が必要です

農地転用とは、「農地を農地以外に使用する」ことであり、都道府県知事の許可を受けなければ行えないこととなっています。(申請面積が4haを超える場合は農林水産大臣の許可)

農地の転用には主に次に掲げるものがあります。

- 農地に住宅、工場、店舗、農業用施設(一定面積以上の作業場、畜舎、堆肥舎など)等を建築
- 農地を駐車場、資材置場、私道として使用
- 造林のため農地に植林
- 農地を土木工事等に伴う現場事務所敷地・資材置場・残土捨場等として一時的に使用
- その他農地以外として永久的にまたは一時的に使用する場合

無断転用は農地法違反です!!

許可を受けずに転用を行った場合は、工事の中止・農地への原状回復、その他違反行為の是正のため必要な措置が命ぜられるほか、罰則(懲役又は罰金)の適用があります。

農地の現状変更届

農地を耕作目的で利用するために盛土・切土等何らかの改良を加える場合「農地の現状変更届」を提出する必要があります。

農地の権利の移動には許可が必要です

農地法第3条について

農地法第3条は、農地等についての権利の移転及び設定について、農業者以外の者によって取得されないようにするとともに、耕作者の地位の安定と農業生産力の維持・拡大を図るために、許可制度による規制を加えています。

また、上記の権利の移転及び設定等をする場合には、農業委員会の許可が必要です。許可を得ないでした行為は、その効力を生じません。

農地法第3条による主な許可基準

- 権利を取得しようとする者が農業経営に供すべき農地のすべてについて耕作すると認められる場合
- 権利を取得しようとする者が農業経営に必要な農作業に常時従事すると認められる場合
- 権利取得後の面積が50ha以上である場合

農地に関する相談は、地区担当農業委員か農業委員会事務局または各総合支所産業建設課まで

委 委 委 委 委 委 委 委
農業委員会だより編集委員会
員 員 員 員 員 員 員 員
員長 副委員長
狩三菅大狩及菅小白菅鈴
野浦原内野川原野石原木
善昭英一和正一大晃正康
典良俊也義一志介雄則

七月の全国農業委員統一選挙に伴
い、栗原市農業委員会も改選され、
女性3名を含む新たな農業委員と共に
に活動を展開しております。
さて、昨今の農業情勢は大変厳し
いものとなつておりますが、担い手
の確保・育成、遊休農地の解消等に
全力で取り組んでまいりたいと思いま
すので、市民の皆様のご支援、ご
協力をお願いいたします。
また、農業委員会だよりの発行に
つきましても、親しみやすく、わか
りやすい紙面となるよう編集委員一
同、努力を傾注してまいります。
最後に、この度の震災により被災
を受けられた方々の一日も早い復興
をご祈念申し上げます。

(鈴木 康則)

編集後記